

放射状グリア：

哺乳類神経新生を支えるしくみ

Radial Glia: the Basis for Mammalian Neurogenesis



R4年度
CMX若手共同
研究プロジェクト
研究進捗発表会
+ 大学院特別講義
「先端医学トピックス」

6/22

15:20開場・交流会

15:50 特別講演
神緑会館記念ホールB
(福利厚生棟 4 F)+Web

大隅 典子

Noriko Osumi

東北大学副学長

東北大学大学院・医学系研究科

発生発達神経科学分野・教授

神戸大学大学院医学研究科CMXアドバイザーボード

私たちの体は、最初はたった1個の細胞である受精卵から始まります。細胞はどんどん分裂し、莫大な数の異なる種類の細胞が生成されます。受精後4週間くらいで「神経管」という構造が現れ、区画化され、前端の領域が「脳」の基盤となります。神経管の中に存在する「神経幹細胞」は「放射状グリア」と呼ばれ、神経細胞（ニューロン）を生み出し（神経新生）、その移動を支えます。発生が進むにつれて神経幹細胞の丈は長くなっていくので、細胞内の適切なところに適切な「分子」が配置されることが必要です。私は、神経管の区画化や神経新生の鍵因子であるPax6という分子の機能の解析を行っていましたが、ある大学院生が細胞の分裂周期を制御する「サイクリンD2」という分子のmRNAが神経幹細胞の先端部に集まることに気づいたことをきっかけに、放射状グリア内のmRNA輸送のしくみに興味を抱くようになりました。講演では私たちの研究の最新成果についてお話しするとともに、仮説を検証する研究という営みの面白さをお伝えしたいと思います。

交流会にご参加の場合

申込期限

6/8

※講演のみ6/20まで
お申込は問合へご連絡ください

主催：メディカルトランスフォーメーション
研究センター(CMX)

問合：研究支援課研究企画係(羽子田/天羽)

E-mail：k9shien*med.kobe-u.ac.jp

*を@へ変更してください

内線：5195/5189



Center
for
Medical
Transformation